

学校法人 廣池学園 様

(麗澤大学、麗澤中学・高等学校、麗澤瑞浪中学・高等学校、麗澤幼稚園)

セキュアなノートPCの実現にShadow Desktopを活用し
テレワーク制度をスタートさせました

リモートワークの生産性向上



学校法人 廣池学園

The Hiroike Institute <https://www.reitaku.jp/>

業種 教育

教職員数 644 名

2024年4月1日時点

- > キャリアセンター 課長 関根 那美氏 (左)
- > 法人事務局 人事部 人事課 課長 森一茂氏 (中)
- > 情報システム部 情報システム課 主任 麗澤大学 情報教育センター 仲 諒太郎氏 (右)

導入の目的

テレワークを行う職員に支給したノートPCのセキュリティ担保

Shadow Desktopの活用状況

2024年4月にShadow Desktopを契約し、現在77ライセンスを導入しています。スタンダードプランに加え、複数のPCで同じデスクトップ環境を利用し、データを同期できるマイロケーションをオプションとして付加しています。Shadow DesktopをインストールしたノートPCは、「外出先でPCを利用する」「テレワークにより、自宅でPCを利用する」などの用途がある職員が利用しています。現在のところ、ユーザーデータの保存先はクラウドのMicrosoft365 (OneDrive) に設定しています。

Shadow Desktop導入のきっかけ

テレワークを推進する際、制度のフレームだけでなく、システムでセキュリティを担保する必要があったことがShadow Desktop導入のきっかけです。まず、コロナ禍によって当学もテレワークに注目するようになりました。ノートPCを利用しているのは限られた職員という状況(自席のPCはデスクトップ)で、セキュリティの不安を解消する自信がないという思いが大半でした。ノートPCを紛失してしまう可能性はゼロではなく、悪意ある人の手に渡ることは十分に考えられます。これを踏まえ、テレワークやノートPCの活用を推進するには、システムによるセキュリティ担保が必要と考えるようになりました。



(左)
情報システム部 情報システム課
主任 麗澤大学 情報教育センター
仲 諒太郎氏

なお、シンクライアントも検討しましたが、導入に要するコストと時間から見送りました。

Shadow Desktopを選んだ理由

2023 年秋の展示会に足を運んだ際、アップデータのブースでShadow Desktopに出会いました。データレスクライアントというジャンルについては、存じ上げていましたが、機能の詳細などは不明なところが多かったため、ブースで話を伺って納得しました。学内に持ち帰り、他のデータレス製品と比較・検討を行い、最終的に導入するならShadow Desktopという結論に達しました。その理由は以下の通りです。

裏面へつづく

選定理由〈1〉 導入にあたってのコストパフォーマンス

データレスクライアントはソフトウェアの制御のみでPCにデータを残さないシステムを実現でき、しかもコストを抑えられます。そのデータレスクライアント製品のなかでも、Shadow Desktopはコストパフォーマンスに優れていました。

選定理由〈2〉 使いやすい管理コンソール

管理コンソールの「Shadow Desktop Manager」が見やすく使いやすかったです。残りのライセンス数や誰がどのPCを利用しているかなどが一目瞭然で、ユーザーのログ情報も参照できます。例えば、万が一ノートPCを紛失してしまった際、ログを追跡することが出来るので、最善の対処方法を考えることができます。

選定理由〈3〉 複数のPCで自分のデスクトップを再現するマイロケーション

一部の部門ではノートPCを個人に紐づけていません。部門に紐づけた複数のノートPCを複数の職員で利用するスタイルです。こうした利用方法の場合、セキュリティを担保しつつ、どのノートPCを使っても自分のデータを編集できる仕組みが必要です。Shadow Desktopは、この仕組みを実現できるマイロケーションをオプションとして選ぶことが可能で、Shadow Desktop導入の大きな後押しになりました。

選定理由〈4〉 信頼できるサポート対応

問い合わせに対するレスポンスの速さが素晴らしいと感じました。営業担当の回答はもちろん、技術的な問い合わせにおいても技術部門に確認し、すぐに回答していただきました。丁寧に分かりやすい回答も信頼できると思いました。

Shadow Desktop導入を後押ししたテレワーク制度

タイミング良く、人事部の方からテレワークのフレームをつくり、制度化を目指す動きがありました。明文化された規定やルールがあれば、テレワークは推進しやすくなります。制度化にあたっては、テレワークが容易な部門と難しい部門があるため、公平性の担保がポイントになります。そこでまずは、2024年4月から試験的にテレワーク制度を導入し、1年間は検証期間、本運用は2025年4月としました。そして、このテレワーク制度の推進を担うのが、Shadow DesktopをインストールしたノートPCとなります。

Shadow Desktop導入後の評価・効果

現在までユーザーからの問い合わせはありません。最初の起動に10秒程度の時間が必要ですが、気にならないレベルで、その後の使用感はいずれのデスクトップPCと一緒です。ファイルを開く・保存する操作に違和感を覚えることもなく、快適に利用できています。また、シャットダウンすることで安全に持ち運べるため、移動の多いユーザーでも安心して使用できます。

今後の展開

アップデートから2024年7月にGoogle Driveに対応したとのアナウンスがありました。本学では主にGoogleサービスで運用していることから、Google Driveへの切り替えも検討していきたいと考えています。また、デスクトップPCをノートPCに切り替える対応も進める予定です。ほか、当学が運営する岐阜県の麗澤瑞浪中学・高等学校からテレワークを行いたいという声が届いています。

USER'S VOICE 利用者の評価・意見

森様：あまり外出する機会がない部門ですが、テレワーク制度を推進していることもあって、なるべくテレワークを行うようにしています。利用者の声を聞くと「大きなトラブルもなく快適に利用できている」とのこと。Shadow Desktopのおかげで、自分がデータを流出させることはほぼないわけですから、「漠然とした不安から解放された」との声も数多く上がっています。あとは他部門の声を聞きながら、本運用に向けてテレワーク制度をブラッシュアップできればと考えています。

法人事務局 人事部 人事課 課長 森 一茂氏



キャリアセンター 課長 関根 那美氏

関根様：学生の就職に関する業務を行っているのがキャリアセンターです。企業に伺うことが多いため、本来であればノートPCは必須ですが、セキュリティ上、BYOD(Bring Your Own Device)のノートPCは持ち歩けません。そのため、ノートに書き込んだメモを自席で入力するという手間のかかる作業を行っていました。テレワーク制度導入以降は、Shadow DesktopがインストールされたセキュアなノートPCを持ち歩くようになりました。企業訪問の際はその場で入力できるようになったため、以前のような二度手間はありません。機密情報や個人情報などの重要なデータは、PCに残らないようにしているつもりでも、気づかない間にデータを持ち歩いている可能性があります。やはり、Shadow Desktopの安心感は格別だと思います。とはいえ、Shadow Desktopに制御してもらっている感覚はなく、自席のPCと何が違うのか分かりません(笑)。しかし、それこそがShadow Desktopの素晴らしさだと思っています。



アップデータ株式会社

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-5-8KDX 神田北口ビル 7F

03-6853-7800

sales@updata.co.jp